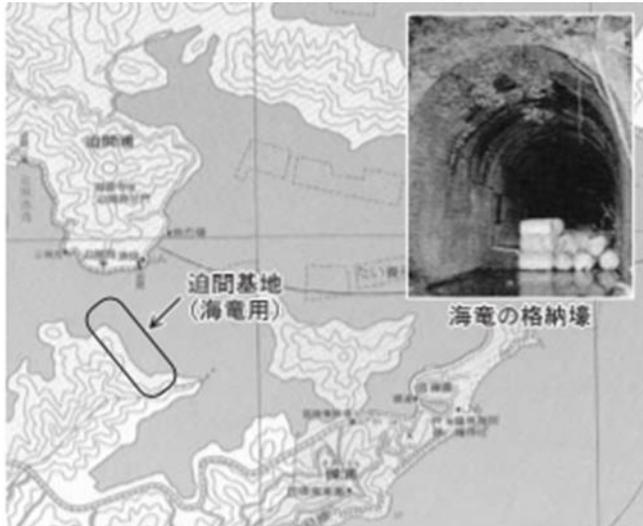


NO38

海竜の格納壕

所在地は度会郡南伊勢町迫間浦



地図、写真は「三重の戦争遺跡」より出典

本土空襲が激化する戦争末期になると三重は名古屋・阪神の空襲にむかう米軍機の空路となり、さらには太平洋から日本海に渡る通路にもなっていました。

志摩半島や南西部の紀州にかけては、地上戦を予想してトーチカ（地下要塞）や地下壕が、又海岸に近づく米艦にむけて特攻基地がつくられ、「玉砕」の名のもと、敵に体当たりする訓練がおこなわれていました。

五ヶ所湾岸にある迫間基地（中でも海竜の格納壕）は、県内に現存する地下壕の中では最大規模であるといわれています。

戦局が悪化の一途をたどった1945年の初頭には、本土上陸に備え来襲艦船に突入するための特攻艇基地として建設され、数100名の予科練が駐屯していたそうです。さいわいにも、実際に使用される前に終戦を迎えました。

今はその存在さえも忘れ去られていますが、もし戦争が長引いていたらと思うと恐ろしくなります。